

図 22 PV に対する抗体を用いた免疫組織化学染色による、歯状回の PV 含有 GABA ニューロンの分布と形態の比較。(A) 対照例。(B) 曝露例。細胞体とそこから伸びる樹状突起、および顆粒細胞層 (g) 内に分布する軸索終末が観察される。

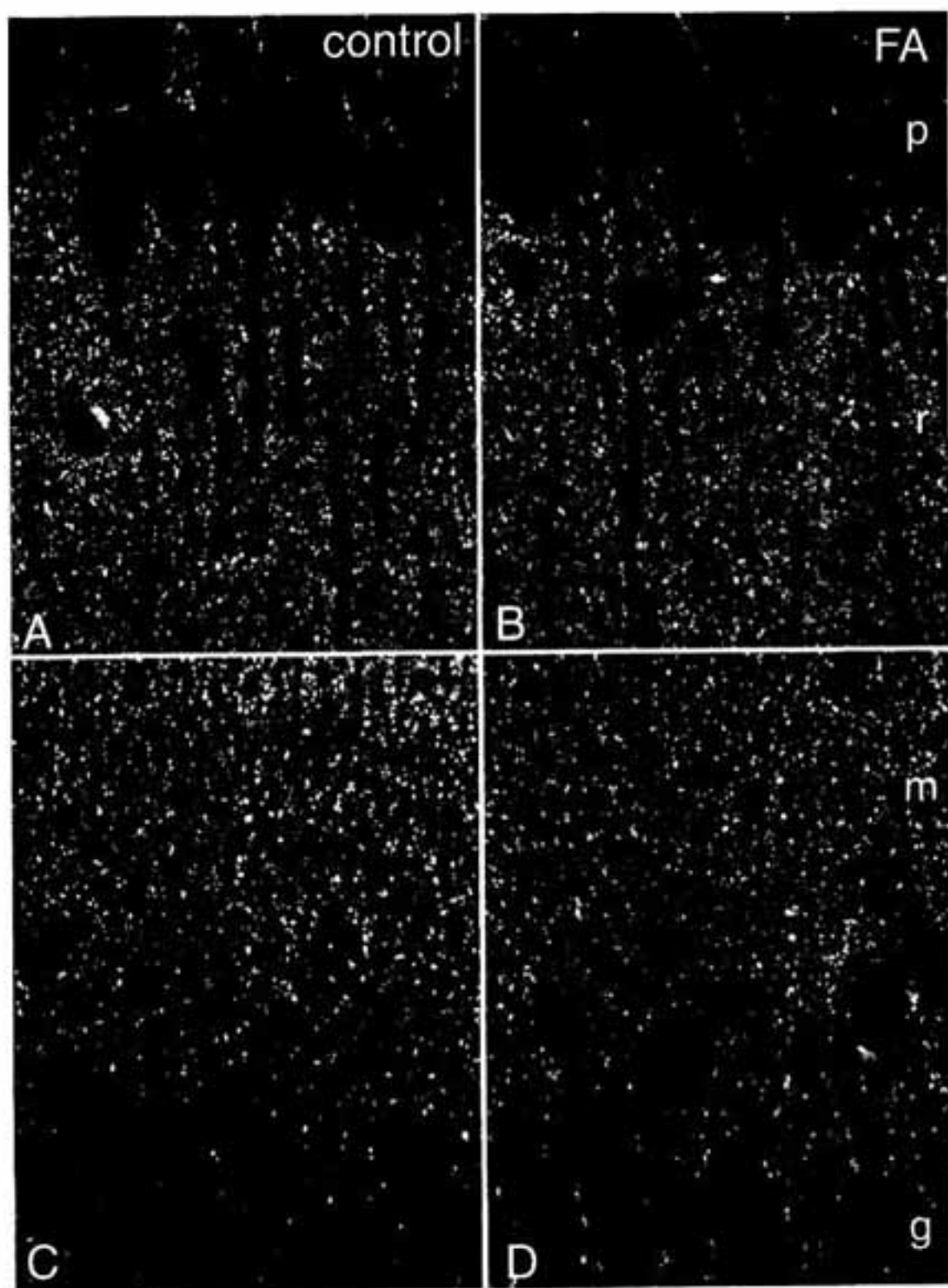


図 23 synaptotagmin に対する抗体を用いた免疫組織化学染色による、CA1 野 (A, B) および歯状回 (C, D) における軸索終末 (反応陽性の点状構造物) の分布と形態の比較。(A, C) 対照例、(B, D) 曝露例。細胞体とそこから伸びる樹状突起が反応陰性の像として認識できる。

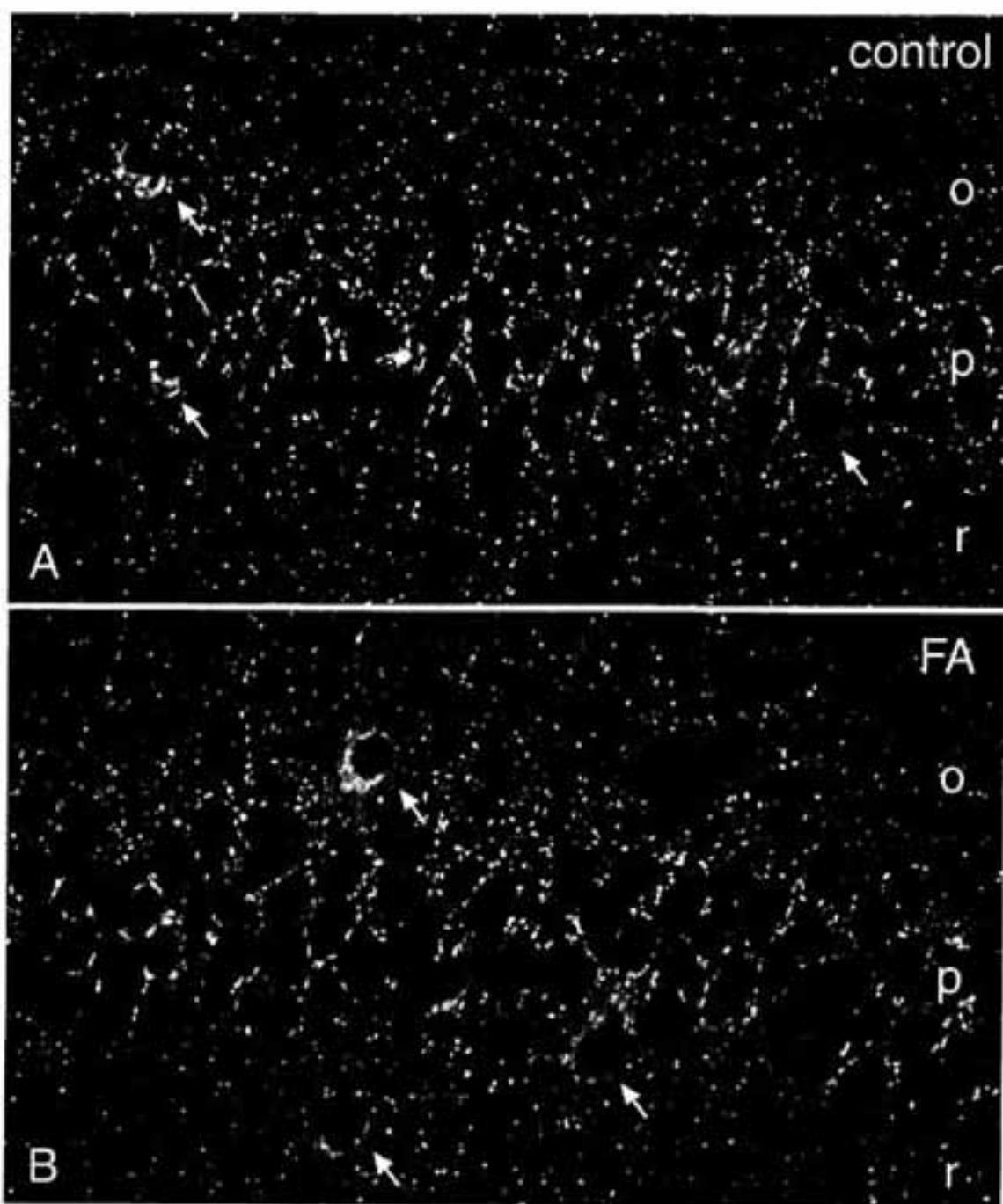


図 24 GAD に対する抗体を用いた免疫組織化学染色による、CA1 野の GABA 作働性神経細胞（矢印）と軸索終末（反応陽性の点状構造物）の分布と形態の比較。（A）対照例、（B）曝露例。細胞体の染色は主に核を取り囲むゴルジ領域に認められ、細胞周辺部は弱い。

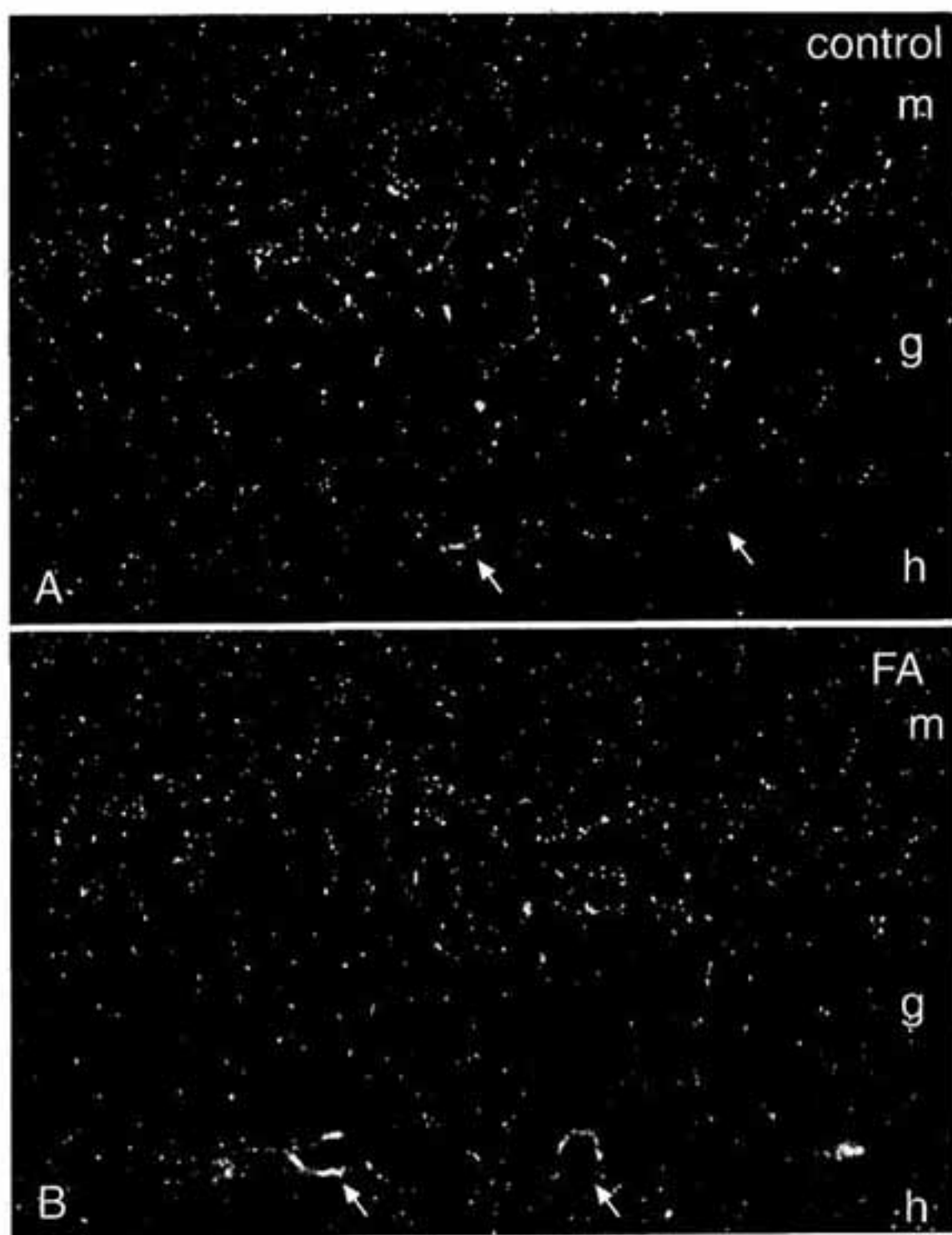


図 25 GAD に対する抗体を用いた免疫組織化学染色による、歯状回の GABA 作働性神経細胞（矢印）と軸索終末（反応陽性の点状構造物）の分布と形態の比較。（A）対照例、（B）曝露例。図 24 と同様に、細胞体の染色は主に核を取り囲むゴルジ領域に認められ、細胞周辺部は弱い。

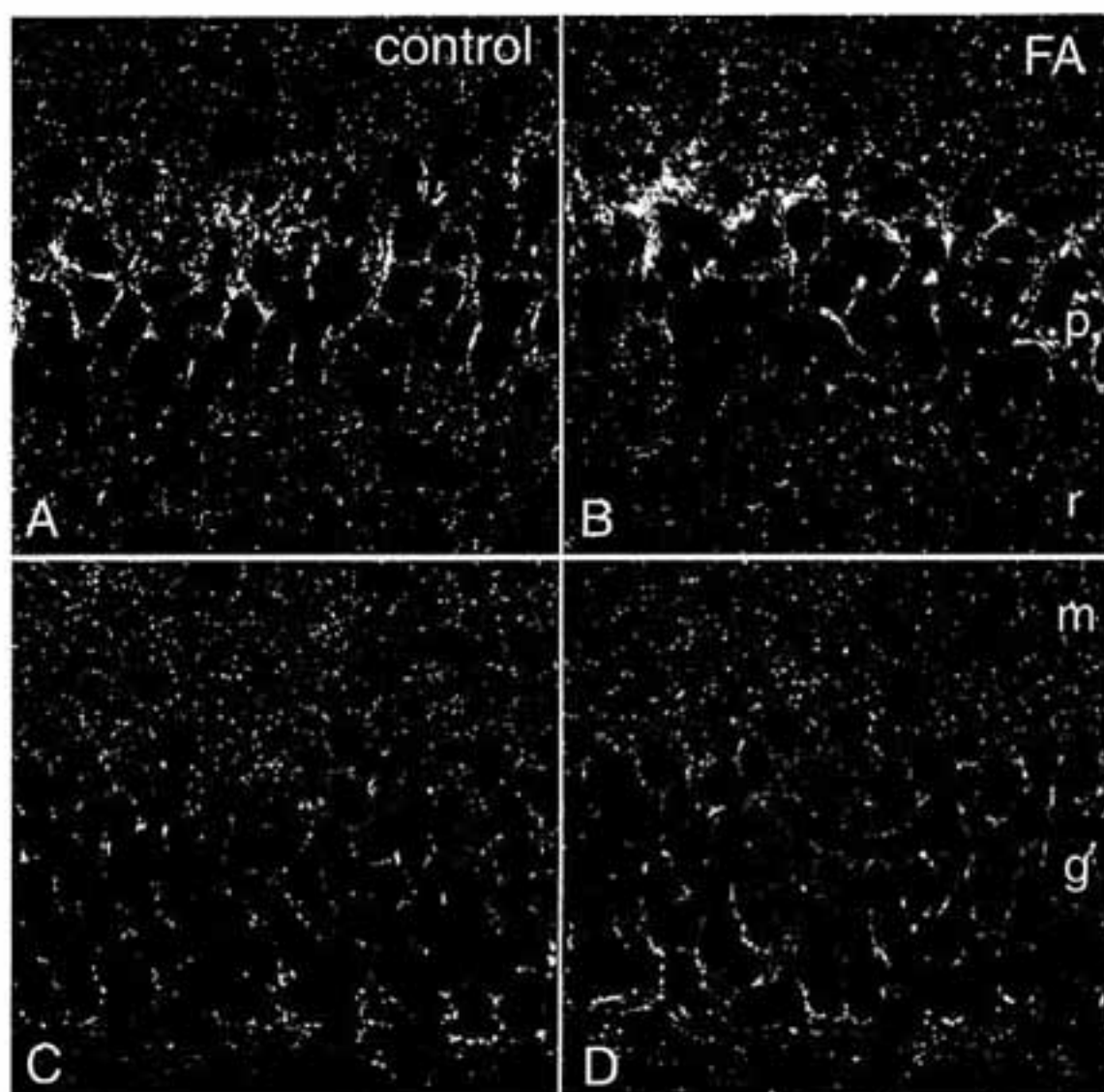


図 26 GAT1 に対する抗体を用いた免疫組織化学染色性の、CA1 野 (A, B) および歯状回 (C, D) における比較。(A, C) 対照例、(B, D) 曝露例。反応陽性の構造は、主に GABA 作働性神経細胞由来の軸索終末 (多数の点状構造物) と、それらの間を結ぶ細い軸索からなる。